

北社会ニュース オ32号



2007年5月16日

発行者：鈴木壮夫

“善積康郎（高11回）応援団長49年ぶりの

対一高硬式野球定期戦応援・観戦・体験等聞き書き”

5月12日（土）、青葉繁れる故郷仙台。一・二高定期戦に合わせ高校同期会仙台ピンピン会が開催された。私は時間的余裕無く、野球を応援できなかったが同期の応援団長が49年ぶりに球場に赴き、伝統の一戦観戦記をピンピン会で語った。以下はその聞き書きです。まず試合結果は

一高	021	101	109		10 ¹⁵	一高が2連覇、戦後の優勝回数は
二高	040	000	100		5	一高が27回、二高が26回。

一回表裏の攻撃・守備を観戦、その時点で一高のレベルがより高いことが分かり、最初から「これは勝てない」と観念した。二回の4点は一高の守備の乱れで、二高の打力も弱い。4人の投手の継投にもかかわらず、最終回の9回は3塁打を2本も含む猛攻を受け大敗した。自分が応援団長だった昭和33年、評定河原球場で4-2、6-2と連勝したことが懐かしく思い出された。しかし、49年ぶりの定期戦、「北斗の光」を耳にして胸にジーンとくるものがあり、“杜の都の早慶戦”は受け継がれていると実感もした。

二高は共学に移行して初めての定期戦。女生徒もそろいの青いメガホンを手に応援していた。球場がフルキャストスタジアム宮城のせいか当時評定河原で試合前行っていた応援団長の相手校へのエール交換もなかった。いつ頃から始まったことかは分からなかったが一高は“オレンジ”二高は“ブルー”がそれぞれのスクールカラーで、OB席ではその色の帽子が配られ、応援した。久しぶりだったので一塁側、三塁側を歩き廻った。

二高の応援は旗を振らず、応援歌が書かれた看板を“応援委員会”が持ち出し、メガホンを打ち鳴らして応援。時たま、OB応援団員が5人、現役の生徒の前で旗を振っていた。整然とし過ぎて、面白みが感じられなかった。対する一高は当時と同じ、羽織袴の団長、ポロポロの学生服でまあ・昔の雰囲気。ヒットを打つと、応援団員が自分の席からフェンスの方向、前に下りてきて、肩をくみあい、飛び上がって応援、攻撃が終了すると元の席に戻っていった。自由奔放な若者らしい応援と感じた。

49年前、評定河原の外野席は女子校生であふれかえっていた。二高応援席の女生徒を除けば、パラパラしかいなかった。当時と違っていたのは両校とも野球部の父兄・オバさん(?)の人数が多いことだった。その人達の席もあるぐらい目立っていた。

両校とも制服はないから、生徒達はTシャツ、そして茶髪も散見され、当たり前のことだが似たり寄ったりだった。

翌日、河北新報には“伝統の一戦 女生徒参戦”の見出しで、大会史上初めて、女子生徒が応援合戦に加わった仙台二高の応援席の写真が掲載され、「全校生徒の気持が一つになっていた。伝統ある行事に参加でき、うれしい」との1年生女生徒のコメントもあった。団長は当時と同じくパートナーシップが引き継がれることを期待すると語り、結んだ。

(1) 本日・第251回北社会

講師：日野克彰氏（高32回）

ご承知のように、先月の豊島区区議会議員選挙で三期目の挑戦を見事勝ち取りました。前号にも書きましたが、日野氏の特定の政党や団体等から支援も拘束も受けない活動に私は共感をおぼえます。本日はこれ以上ないという“オフレコ”で各政党のホンネとか有権者の意識とかを語っていただきたいと思っております。無所属だからこそ、同窓生の前だからこそ言い切れることがいっぱいあるだろうなとも期待しております。

日野氏の選挙区豊島区では候補者の三分の一が落選する激戦地区ですが、私が住んでいる川越市は47人が立候補して40人が当選。議員さんの数も多いし、これだけのことに“お金”をかける必要があるのかと腹立たしくもなる。市町村合併にて議員定数が減ることには大賛成です。そして、日野氏の経歴についてももう一回聞いてみたい。早稲田ー東大ーIBMー聘珍樓ー予備校教師（現代文等）ー区議会議員、興味津々ですね。

(2) 来月以降の北社会

講師のご都合及び会場手配等にて開催予定日は下記通りです。

6月20日（水） 7月17日（火） 8月20日（月） 9月は金曜日開催を予定しておりますがここエドモンドでは予約が取れそうもありません。先月もお願いしましたが【9月7日、14日、21日の何れか】どなたか心当たりありませんか。

来月、6月20日の講師については母校の同窓会関係者のご講演を打診中です。母校が共学校になり早一ヶ月が経過しました。学内の雰囲気はどうなのか、そして共学校になったので従来の同窓会活動には無関心という同窓生も少なからずいるという話もでております。同窓会予算計画にも影響が出るという話もあるらしい。一つの節目なのでお聞きしたいと思っております。

(3) 講師のご推薦

うまくお伝えできないのですが、私が是非お聞きしたいと思っているテーマを書きますのでご主旨をご理解いただき心あたりございましたら講師の方をご推薦下さい。

☞米韓のFTA（自由貿易協定）交渉が妥結、議会で批准されれば、米韓の間では物も情報もそして人までもかなり自由に行き来できるようになるらしい。二つの国でありながらマーケットとしては一つの国になり、韓国社会の経済構造はガラリと変化すると伝えられている。日本も各国とのFTA締結は大きな課題の筈。そんなに先のことではないとの見方もある。中国の大卒の初任給は大都市の北京・上海で日本円換算3万円弱。日本の七分の一、北海道と九州の賃金格差存在と譬えることもできるのでは。日本優位は継続できるのか、それとも今や下り坂なのか・・・云々☞是非聞いてみたいのです。